

令和4年度 江戸川区立松江小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	「かがやき」力いっぱい笑顔いっぱい松江の子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像
--------	-----------------------	----------------------------	----------------------------

前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> ○問題解決学習を基盤にした授業改善 ○校内研究による体育の授業力向上と児童の体力向上へ向けた取組の強化 <課題> ○基礎・基本の定着や更なる学力向上 ○サービス事故0を実現し、信頼される学校を目指す
-------------------	---

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・7つの主な事業(取組)に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・低学年の完全習得に向けた取組「マスター検定」 ・保護者と連携した家庭学習の取組「家庭学習キャンペーン」	・1年生「繰り上がりのあるたし算・繰り下がりのあるひき算」、2年生「かけ算九九」について、全児童が進級までに合格する。 ・各学期1回の実施と内容の充実。ベネッセ学力調査に取り組みせ、結果を考察して個別指導の充実を図る。	B	B	・マスター検定を実施し、低学年児童すべての基礎基本の定着を把握し、指導に生かすことができた。 ・ベネッセ学力調査に向けた学力向上の取組を行い、基礎基本定着を図ってきた。ベネッセ学力調査で実態を正しく把握し、個別指導に生かすことができた。	B	・学校全体で児童の学力を高める取組をしていることがわかる。基礎基本をしっかりと定着させ、学力を向上させてほしい。 ・ベネッセの学力調査の結果を考察し、次年度に引き継ぐことで中長期的な指導を実現していく。
	体力の向上	・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	・休み時間の外遊びの充実。運動遊び「わくわくタイム」を計画的な実施 ・体力向上をねらいたした取組「力いっぱいタイム」	・体力調査において江戸川区の平均値を上回る。運動遊び年間35回、体力向上に向けた取組年間3回の実施を目指す。	A	A	・わくわくタイムの計画的な実施及び、力いっぱいタイムの充実により、児童の指導に生かすことができた。	A	・新型コロナウイルス感染症の状況で、児童の体力が全国的に低下している中、松江小学校の取組は評価できる。休み時間に教員が児童と一緒に体を動かす姿をよく見かける。教員の意識が高いと感じる。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・学校図書館の計画的な実施及び、司書との連携強化 ・探究的な学習に向けた授業改善	・年間12回、計画的に利用する。司書を活用し、調べ学習の充実を図る。 ・課題設定、情報収集、整理分析、まとめ発表のサイクルを確立し、どの学級でも主体的・対話的かつ探究的な学習を目指した授業改善を図る。	B	B	・どの学級でも、読書科の計画的な指導を行うように指導計画を立てて指導してきた。 ・司書教諭が配置されずに、活用できなかったが、教職員や図書ボランティア、松江第四中学校の生徒などによる児童への読み聞かせを実施するなど図書に親しめるような時間を設定してきた。	B	・図書館司書の活用をさらに進める努力をお願いしたい。 また、タブレットに頼りすぎず、本の良さも継続して指導する必要がある。 ・近隣中学校との交流(読み聞かせなど)機会をさらに増やしてほしい。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・ユニバーサルデザインを取り入れた教室掲示の全校統一 ・行事ごとの交流及び各教科での交流 ・「わかば学級1日指導体験」の実施	・教室掲示を全校で統一し、刺激を調整して集中できる環境にする。 ・運動会等の行事での交流に加え、授業での交流も活性化。月に1回程度の交流を目指す。 ・全教職員の特別支援教育への理解を深めるために、1日指導体験を全教職員に実施	B	B	・全校で統一した掲示にすることで、児童が安心して授業に取り組んでいる。 ・全教職員が特別支援学級の一日指導体験を実施できた。	B	・特別支援学級の児童が更に通常学級の授業に参加したり交流したりする機会を作ってほしい。 ・多くの行事で支援級の児童が通常級の児童と一緒に活動する場面を見ることができた。
	子供たちの健全育成	・子供たちの健全育成に向けた取組	・生活指導職会での共有 ・校内委員会による児童の健全育成に向けた取組強化	・毎週、生活指導連絡会を実施し、各学級の様子や児童の困り感などを共有し、全教職員で指導の統一や見守りを行う。 ・いじめや不登校などの問題に対し、校内委員会を行い、様々な教員で見守りや支援を行っていく。	A	B	・生活指導連絡会を週に1度設定してきたことで、担任だけでなく他学年の教員も、当該児童に声掛けしたり、支援したりできるようになっている。	B	・中学校に進学すると不登校になる児童が多くなる傾向がある。未然に防ぐ対策を期待している。 ・不登校傾向の児童に対して、全教職員で情報共有するとともに、スクールカウンセラーや専門機関とも連携し、一人一人に応じた適切な対応を目指していく。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・学校評議員会の実施	・学校評議員会などにより、地域の意見を積極的に取り入れ、教育活動の改善を図る。	B	B	・感染症の状況によって、学校評議員会が実施できていない。学校評議員会だけに限らず、地域のご意見を積極的に取り入れられるようにしていく。	B	・感染症の状況が少しずつ良くなり徐々に緩和されている。今後さらに協力をしていきたい。 ・ホームページやお便り等で積極的に情報発信していく。また、teturuやその他電子サービス等も適切に活用して、情報を発信していく。
	家庭・地域の意見のフィードバック	・学校公開等で保護者に学校の様子を周知し、意見をいただくことで指導に生かしていく。	・学校公開後に年間4回の共有アンケートを実施	・保護者の意見を積極的に取り入れ、指導や校内の取組の改善を図っていく。年間4回実施し、迅速なフィードバックを目指す。	B	B	・1学期の学校公開により、保護者の意見をアンケートで収集し、分析・考察したものを保護者に周知してきた。 ・タブレットに関するご意見を多数いただいたので、タブレットの利用のきまりを見直し、児童に再度指導を行ってきた。	B	・タブレットの家庭使用では、時間制限をしたり夜中は制限したりするなど、教育委員会ができないか。家庭だけで防ぐことが難しくなっている。 ・タブレットの使用のきまりを、全教職員で共通して指導していくように計画し、情報機器の適切な利用を目指す。
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	・「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・会議時間の短縮、ICTの積極的な利用	・会議の設定時間を適切にすること、事前に検討内容を明示しておくことなどを行い、会議時間の短縮を目指す。 ・ICTを全教職員で積極的に利用し、作業時間の削減を目指す。	B	B	・ICTの活用を積極的に促すことで、会議の精選を図ってきた。勤務時間が超過する場面もしばしば見られたので、業務改善を目指す。	B	・教師の主な仕事は、生活指導と学習指導であり、余計な調査をなくして、ゆとりをもってほしい。公開期間中の掲示物も素晴らしいが、先生方が大変なのではないか。
	学習規律・生活規律を全校で統一して指導する。	・松江スタンダードの徹底	・全校で統一した学習規律、生活規律の設定と徹底	・4月に松江スタンダードを保護者に提示し、学習規律・生活規律の共通理解を図り、指導を徹底する。10月までに80%の児童に身に付けさせる。	B	B	・松江スタンダードの徹底を図るために、繰り返し指導してきた。80%には及ばない。特に、タブレットの使用や廊下の歩き方に課題があるので、計画的に指導していく。	B	・下校の様子を見ていると、以前に比べて乱暴な児童が減ってきた。笑顔で下校する様子が多くなったと感じている。 ・松江スタンダードを見直し、児童への指導を徹底できるように、生活指導部を中心に検討していく。